

学都屋台食談

第9回 株式会社アイ・オー・データ機器
代表取締役社長 濱田尚則氏

金沢で過ごす学生生活の意義や仕事観・人生観を、講師と学生が語り合う「学都屋台食談」を11月15日から11月25日にかけて、金沢市の片町中央味食街で開催しました。2006年から今年で14年目を迎えた食談で、講師の方々が語ったメッセージを紹介します。

I-O DATA

独りよがりにならず、 いろんな人の意見を参考に

今日のように初対面の人とお酒を酌み交わす場では、まず自己紹介から始めますよね。それと同じように、当社では会議を始める前に、「チェックイン」という取り組みを行っています。やり方は簡単で、参加者が一言ずつ、その時の心境を素直に話すだけです。人は自分の声を聞くと安心しますから、これによって会議の場で意見を言いやすくなります。

さまざまな考え方や価値観を持つ人が集まり、まんべんなく発言し合うことで、思ってもみなかったアイデアが生まれたり、それを膨らませたりすることが可能になります。これを「集団的知性」と言うそうで、当社でもよりよい製品を生み出すために、こうした手法を用いています。学生生活でも、独りよがりにならず、なるべくいろんな人の意見を聞くことが自身の成長につながるはずです。

受け身にならず、 常に自分から仕掛けを

自主的にこの場に集まってくれた皆さんは違うと思いますが、最近の若い人には指示待ちの人が多く感じるように感じます。しかし、働く上で必要とされるのは受け身ではなく、常に自分から仕掛けられる人材です。仕事の中で、自ら課題を見つけ、その解決にチャレンジできる人が重宝されるのです。

社会に出ると、学生時代よりも正解のない問いにぶつかることがずっと多くなり、そのため、能動的に行動することが必要なのです。皆さんも、例えば、飲み会の幹事を買って出て、みんなを楽しませるにはどうすればいいかを考えるなど、積極的にアクションを起こすようにしてください。大変かもしれませんが、その時身に付いたことは、社会人になってもきっと役立ちます。

参加学生の中には、自分の思い描いたような進路に進めなかったと話す人もいました。しかし、そんな経験も後になって意味を

自ら課題を見つけ、行動できる人材に



参加生

前左から、井上周さん(金沢大学修士1年)、川上華穂さん(金沢学院大学3年)、後左から、矢島真吾さん(金沢工業大学3年)、村井慶太さん(金沢大学2年)、松井鞠生さん(金沢美術工芸大学3年)

持つということが往々にしてあります。就職活動にしても、本当にしたい仕事ができる人はごくわずかです。不本意ながらも内定をもらった企業で働いているうちに、自分のやりたいことが見つかるケースも決して珍しくありません。ですから、私は縁があった会社にはいったん入ってみることをおすすめします。そこでやりがいを感じられるようになればハッピーですし、他にやりたいことが見つければ、その時点で軌道修正すればいいのです。

物事をじっくり考えるには 情報の渦から離れることが大事

ところで、私はしばしば、なぜ本社を東京に移さないのかと尋ねられます。確かに取引先の多くは東京で、その近くでビジネスをした方が、効率が良いのかもしれませんが、ですが、ものづくりをする上で大切な要素は、他にもあるのではないのでしょうか？

経済の中心地だけあって、東京には膨大な量の情報が渦巻いています。情報が多いいことは一見良いことと思えますが、それに飲み込まれて物事の本質を見失っては元も子もありません。混雑地帯から距離を置くことで、世の中の動向やユーザーのニーズを俯瞰し、熟考することが可能になります。皆さんも金沢で学んでいる間に冷静に自分を見つめ、人生の指針を見つけてほしいと思います。



講師

株式会社アイ・オー・データ機器
代表取締役社長

濱田 尚則氏

はまだ・なおのり

1965年、石川県金沢市出身。石川県立金沢商業高等学校を卒業。大野信用組合(現金沢中央信用組合)での勤務を経て90年4月にアイ・オー・データ機器に入社。東京営業所にて営業を担当。営業部部長、CS部部長、常務取締役事業戦略本部本部長を歴任。2017年9月に代表取締役社長就任。